

## 布施について

定光寺 乙川文英

令和四年四月二十六日 加茂法話会

### はじめに

お土産・プレゼント、引き出物・お中元お歳暮、記念品など・・・これらはなぜやり取りするのだろうか。モノそのものの役割ではなく、「あげる」行為が役割なのである。だから、相手にあげた瞬間、そのモノの役割は終わっている。(辰巳渚『「捨てるー」技術』宝島社新書)

### 六波羅蜜

大乘仏教において菩薩に課せられた六種の実践項目

布施

持戒 (戒律を守ること)

忍辱 (苦難に堪え忍ぶこと)

精進 (たゆまず仏道を実践すること)

禅定 (瞑想により精神を統一すること)

智慧 (真理をみきわめ、悟りを完成させる智慧)

### 四摂法

人びとを引きつけ救うための四つの徳

布施

愛語 (慈愛の言葉)

利行 (他人のためになる行為)

同事 (他人と協力すること) ※

### 道元禅師のことば

その布施といふは、不貪なり。不貪といふは、むさぼらざるなり。むさぼらずといふは、よのなかにいふ、へつらはざるなり。

轉じがたきは衆生のころなり、一財をきざして衆生の心地を轉じはじめむるより、得道にいたるまでも轉ぜんとおもふなり。そのはじめ、かならず布施をもてすべきなり。かるがゆゑに、六波羅蜜のはじめに、檀波羅蜜あるなり。心の大小は、はかるべからず、物の大小も、はかるべからざれども、心轉物のときあり、物轉心の布施あるなり。(『正法眼蔵』「菩提薩埵四摂法」)